

# 慶應言語学コロキウム

## 【拡大研究会 No. 4】

### 言語の起源・進化研究

— 最近の動向・試みと Chomsky の立ち位置をめぐって

講師：池内 正幸 氏(名古屋外国語大学)

[日時] 2019年11月30日(土) 13:30-18:30

[会場] 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール

\*参加費無料・事前申込不要(会場にて参加者カードへの記入が必要となります)

本講演の主旨は、言語の起源と進化の問題に関する Noam Chomsky の最近の発言・管見・立ち位置を、最近の言語の起源・進化研究のやや広い文脈と現状(の一部)の中に置きつつ、その発言等との比較・対照及びそれらの批判をも交えながら、言語の起源・進化の“How?”と“When?”の問題についてミニマリスト・プログラムの視点から一定の仮説の提示を試みることにある。

Chomsky が、しばらく前まで、言語の起源・進化研究に対して、好意的ではないどころか、むしろ否定的な態度を取っていた(その一方で、発言もしていた)というのはよく知られているところである(2008年頃までの経緯については、池内(2010)参照)。本講演では、その後の最近の幾つかの発言・主張(Berwick and Chomsky (2016, 2017, 2019)等)を観ながら、Chomsky の一連の生成文法/ミニマリスト・プログラムのスタンスからの言語進化研究について、例えば、UGの意味と地位、(併合の)前駆体、原型言語、感覚運動体系・概念意図体系の進化等に関わる幾つかの問題点を指摘・議論する。具体的には、以前から提唱している「併合語彙結合仮説」と「言語(“超”)早期発現仮説」(池内(2018)等)の提示・解説、そして、修正を試みる中でそれらの議論・検討も併せて行うという形を取る。

なお、進化(論)に関する初歩的・一般的な事項・概念については必要かつ可能な範囲でその都度解説を加えたいと思う。

参考文献:

Berwick, R. and N. Chomsky (2016) *Why Only Us: Language and Evolution*. The MIT Press.

Berwick, R. and N. Chomsky (2017) “Why Only Us: Recent Questions and Answers,” *Journal of Neurolinguistics*, 43, B, 166-77.

Berwick, R. and N. Chomsky (2019) “The Siege of Paris,” *Inference* Vol. 4, Issue 3, March 2019.

池内正幸 (2010)『ひとのことばの起源と進化』開拓社。

池内正幸(2018)「人類進化と言語の起源・進化」『言語の獲得・進化・変化』188-200.

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所  
電話：03-5427-1595(事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp  
<http://www.icl.keio.ac.jp>